

令和6年12月19日

学校関係者評価委員長様

世田谷区立経堂小学校
校長 青鹿 和裕

令和6年度 経堂小学校自己評価報告書

＜自己評価報告書を作成するに当たって＞

- ・学校の重点目標ごとの具体的な方策の項目に沿って、「学校の自己評価」「保護者・地域のアンケート調査」「児童のアンケート調査」「区・都・全国学力調査」「東京都統一体力テスト」等の分析から、次年度の改善点の方向性を示しています。
- ・「とても思う」「思う」の評価を肯定的な評価として受け止め、分析や考察に活用しています。
- ・児童調査アンケートは、毎年5・6年児童を対象としています。

令和6年度の重点目標

1. 課題を解決する力の育成

自ら課題を見付け、解決のための見通しをもち、必要な情報を収集したり整理分析をしたりして自分の考えをまとめ、表現していく「探究的な学び」を充実させる。

＜基本方針1＞キャリア・未来デザイン教育の実現

＜基本方針2＞教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

2. 自他を大切にすると共に、自己肯定感の育成

子どもを認め、思いを聞く指導を基盤に、「学び合う活動」「学びを振り返る活動」を充実させ、自分や友達のよさを見付け、互いを伸ばしていく子どもを育てる。

＜基本方針2＞教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

＜基本方針3＞多様性を尊重しながら共に育つ教育の推進

＜基本方針4＞地域社会と協働した教育の推進

3. 創造する力の育成

非認知能力に注目し、子どもが自己の目標（ゴールイメージ）に向けて、諦めずに粘り強く取り組み、新しい価値を創り出せる力を育てる。

＜基本方針1＞キャリア・未来デザイン教育の実現

＜基本方針5＞健やかな体づくり

重点目標ごとの具体的な方策

1 課題を解決する力の育成

自ら課題を見付け、解決のための見通しをもち、必要な情報を収集したり整理分析をしたりして自分の考えをまとめ、表現していく「探究的な学び」を充実させる。

(1) 評価結果

【区・全国学力調査の結果から】
<p>○世田谷区学習習得確認調査（４・５・６年生対象）の結果から、全学年・全教科において、世田谷区の平均正答率を上回っている。資料から読み取った情報を基に考えを記述する問題の正答率が区の平均を全ての学年で上回っており、昨年度に比べて改善が見られた。</p> <p>●世田谷区学習習得確認調査の結果から、「国語」の言語事項や「理科」の実験器具や自然事象の名称の正答率が世田谷区の正答率よりわずかに低い学年がある。</p> <p>○全国学力・学習状況調査（６年生対象）の結果から、思考力・判断力・表現力の観点における正答率は、東京都・全国の平均と比べ、調査教科である国語・算数で大きく上回っている。</p> <p>国語・・・経堂小 75.2％、東京都 68.4％、全国 66.0％</p> <p>算数・・・経堂小 64.8％、東京都 57.1％、全国 51.4％</p> <p>○全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査「学び方」に関する項目より</p> <ul style="list-style-type: none">・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。（89.4％（全国 81.9％））・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている。（86.2％（全国 80.3％））・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。（90.3％（全国 80.8％）） <p>○全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査結果「学校の学習における ICT 活用」に関する項目より</p> <ul style="list-style-type: none">・５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を「週 3 回以上」「ほぼ毎日」活用した。（91.1％（全国 59.5％）） <p>○全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査結果「ICT 活用のよさ」に関する項目より</p> <ul style="list-style-type: none">・画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。（95.9％（全国 89.8％））・自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。（91.8％（全国 79.2％））・自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。（94.3％（全国 85.5％））・友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。（92.7％（全国 86.1％））・友達と協力しながら学習を進めることができる。（91.0％（全国平均 87.1％））
【保護者アンケート調査から】
<p>○本校は、丁寧に指導している。（84.8％）</p> <p>○本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。（78.8％）</p> <p>○本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。（83.9％）</p> <p>○自分の子どもは、友達との関わり合いや学び合う活動を行っている。（83.4％）</p> <p>○本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。（81.4％）</p> <p>●自分の子どもは、授業中に、自分の考えを書いたり話したりして伝えている。（66.3％）</p>
【児童アンケート調査から】
<p>○先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。（90.1％）</p> <p>○私は、授業中に、必要な情報を集めたり整理したりして、自分の考えをまとめている。（77.5％）</p> <p>○授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。（93.2％）</p> <p>○先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。（85.5％）</p> <p>○私は、家庭で宿題や e - ラーニングでの学習をしている。（71.9％）</p> <p>●私は、授業中に、自分の考えを書いたり話したりして伝えている。（76.4％）</p>

●私は、自分でめあてを立てたり計画を立てたりして学習している。（73.4%）
【児童対象の校内研究アンケート調査から】
○算数の問題に取り組むとき、習ったことを使って考える。（74.0%）
○振り返りには「学びのつながり」を書いている。（40.6%）
【学校の自己評価から】
○「数学的な見方・考え方の育成」や「学び合い・振り返りの充実」を手だてとした校内研究授業を年間6本行った。5年間の研究の成果が算数以外の教科にも広がり、日常的に探究的な学びのプロセスを意識した授業を行っている。
○教育活動の様々な場面で、学習用タブレット端末を日常的な学習ツールとして活用し積極的に活用し、児童の情報活用能力の向上を図るとともに「探究的な学び」や「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な学びが充実するようにし、学習効果を高めることに努めている。

（2）考察

- ・探究的な学びに関する質問項目である「考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている」について、保護者の肯定的回答は78.8%、児童は90.1%、「考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」についても、保護者は83.9%、児童は93.2%と肯定的な回答が多い結果となった。6年生児童を対象とした全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査においても、「課題解決」や「学び方の工夫」、「活用」といった探究的な学びに関する項目で昨年度同様に、東京都や全国平均を大きく上回った。令和2年度より校内研究で取り組んできた「探究的な学び」の実現を目指した授業改善が、研究教科の算数科だけでなく他教科等にも広げて実践を積み重ね、児童にも探究的な学び方が定着してきていると考える。
- ・全国学力・学習状況調査の結果から、思考力・判断力・表現力の観点における正答率は東京都・全国の平均と比べ、調査教科の国語と算数ともに大きく上回っている。「探究的な学び」の実現のために、校内研究を通して、問題解決的な学習や学び合い、学びの振り返りを重視した授業改善を行ってきた成果と考える。
- ・全学年児童を対象とした校内研究アンケートにおいて、「算数の問題に取り組むとき、どのようなことをよくしていますか」という質問項目に対し、5つの選択肢から「算数の問題に取り組むとき、習ったことを使って考える。」と回答した児童が最も多く、74.0%であった。昨年度より2.5ポイント、一昨年度より9.3ポイント上昇した。また、「振り返り」にはどんなことを書いていますか」という質問項目に対し、「学びのつながり」と回答した児童が40.6%であった。昨年度からは1.3ポイント、一昨年度からは4.3ポイントとわずかながら着実に増えており、既習事項とのつながりを意識させた授業改善の成果と考える。今後も問題解決学習を通して、既習事項と新たに獲得した知識とのつながりを意識させることによって、知識をさらに汎用的なものへと高められることを目指す。
- ・全国学力・学習状況調査結果から、「PC・タブレットなどのICT機器を、これまで頻繁に使用してきた」と肯定的回答をした児童が91.1%おり、全国平均を大きく上回っている。また、「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」の項目では95.9%の児童が肯定的に回答しており、学校評価アンケート調査でも、「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」の項目において、保護者の肯定的回答は81.4%、児童は85.5%と共に高水準である。令和元年度の全児童への一人一台のタブレット端末配備から5年が経ち、授業内での日常的な活用が定着し、児童の確かな学びへとつながっている。
- ・全国学力・学習状況調査結果から、問題解決学習や学び合いなどの場面でICT機器の使用が役に立つと回答している児童が非常に多い。ICT機器の効果的な活用が探究的な学びの実現に有効であると児童自らが実感していることが分かる。

(3) 改善案

- ①今後もより一層、教員が教材研究に努め、学習内容や学習活動のねらいや目的について理解を深める。
そして、探究的な学びのサイクルの中で、「学び合い・振り返り」をする児童の姿や記述を教員が丁寧に見取り、児童が実感できるように価値付ける。それによって、既習事項を使って考えたり、協働的に学んだりしながら、自ら問題解決を図る力を育む。そして、児童がさらに自信をもち、楽しんで問題解決を進められるようにする。
- ②5年間の算数科を通した探究的な学びの校内研究の成果を生かし、他教科でも実践することで、全教育活動での探究的な学びの実現を目指す。
- ③児童の探究的な学びの姿をホームページや学校公開、保護者会等で積極的に発信する。また、学校便りに校内研究の取組や児童の成長を定期的に掲載し、探究的な学びのねらいや成果を保護者や地域とともに共有する。

2 自他を大切にすると共に、自己肯定感の育成

子どもを認め、思いを聞く指導を基盤に、「学び合う活動」「学びを振り返る活動」を充実させ、自分や友達のよさを見付け、互いを伸ばしていく子どもを育てる。

(1) 評価結果

【全国学力調査の児童質問紙調査の結果から】
○学校に行くのは楽しい。(93.5%(全国平均84.8%)) ○自分には、よいところがある。(88.7%:全国平均84.1%) ○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。(90.3%(全国89.9%)) ○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。(82.9%(全国75.8%)) ○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。(90.2%(全国86.3%)) ○ICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。(94.3%(全国85.5%)) ●困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。(73.1%(全国67.1%))
【保護者アンケート調査から】
○本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。(83.3%) ○自分の子どもは、学校で先生や友達に思いを聞いてもらっている。(68.0%) ○自分の子どもは、思いを大切にされたり、よさを認められたりしている。(74.3%) ○自分の子どもは、「自分を役立てようとする」ために、集団の中で自分は何ができるか考えて行動している。(66.7%) ○自分の子どもは、友達との関わり合いや学び合う活動を行っている。(83.4%) ○本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。(76.1%) ●自分の子どもは、次に生かせるように、学習や行事を振り返る活動を行っている。(63.2%)
【児童アンケート調査から】
○学校生活は楽しい。(81.4%) ○私は、先生や友達に思いを聞いてもらえる。(79.9%) ○私は、自分の思いを大切にしたり、よさを見付けたりしている。(74.2%) ○私は、学校生活の中で、「自分を役立てようとする」ために、積極的に役割を果たそうとしている。(75.3%) ○授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。(93.2%) ○私は、友達との関わり合いや学び合いを通して、成長している。(81.4%)

○私は、学習や行事の振り返りをして、次に生かそうとしている。（７６．８％）
【地域のアンケート調査から】
○学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。（９６．８％）
○地域の人や施設を教育活動に生かしている。（８０．７％）
【学校の自己評価から】
○教科「道徳」や外国語、パラリンピアンによる授業などを実施し、多様性理解教育を推進した。
○６月、１１月、２月にふれあいアンケートを実施し、アンケートで気になる回答をした児童には、個別に話を聞く機会を設けている。また、２学期の運動会前には６月に聞き取った内容について、再度話を聞き、児童が学校生活において不安を感じずに生活できるように配慮している。
○３年生以上の児童を対象に WebQU のアンケートを実施し、児童一人一人の思いを読み取り、個に応じた支援の方法を考え実践した。また、２回目のアンケート結果から１回目に講じた手だてが有効だったのかを検証し、よりよい支援策を学年で講じた。
○多くの教員が児童の育成に携わることができるように、算数少人数指導や学年の中での交換授業など、多面的に指導にあたることができるようにした。
○個に応じた指導が行えるようにするために、生活指導全体会や毎週末の生活指導夕会、毎月の校内委員会などを活用しながら、児童の情報を学校全体で共有した。また、特別支援教室の教員やスクールカウンセラー、学校包括支援員などとも連携を密にし、指導の充実に努めた。
○地域の商店や施設の見学や消防団やまちづくりセンターによる防災教室、学校支援コーディネーターにご協力いただいた６年生の「職業調べ」のゲストティーチャーなど、多くの場面で地域の人材を活用させていただきながら、教育活動を実施することができた。
○小１サポーターの給食配膳・片付けの支援や読み聞かせサークル「ありのまま」による読み聞かせ、低学年児童を対象にした放課後算数教室「寺子屋クラブ」など、継続的な地域人材活用により、学校の教育活動の充実を図ることができた。

（２）考察

- ・６年生児童を対象とした全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査において、「自分にはよいところがある」と肯定的回答をした児童は８８．７％おり、全国平均より４．６ポイント多く、昨年度の本校の８４．８％よりも３．９ポイント増加した。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」についての肯定的回答は９０．３％であり、昨年度７９．８％から１０ポイント以上増加した。学校評価アンケートでの「私は、先生や友達に思いを聞いてもらえる」に対する児童の肯定的回答も７９．９％と８割おり、本校の「『自分のよさ』に気付くこと」を大切に、「子どもを認め、思いを聞く指導」を基盤とした全校での取組に一定の成果があったと捉える。こうした「自分のよさ」の実感が、本校のキャッチフレーズである「私は、学校生活の中で、『自分を役立てようとする』ために、積極的に役割を果たそうとしている」ことについて、７５．３％の児童が肯定的に回答していることにつながっていると考え。
- ・全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査において、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と肯定的回答をした児童は８２．９％おり、全国平均より７．１ポイント高かった。また、「学級の友達との間で話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」についての肯定的回答は９０．２％で、いずれも高水準であった。学校評価アンケートにおいても、「私は、友達との関わり合いや学び合いを通して、成長している」と肯定的回答をした児童は８１．４％おり、児童は友達との学び合いを通して、協働的な学びの楽しさを味わいながら、自らの成長を実感できていることがうかがえる。また、「次に生かせるように、学習や行事を振り返る活動を行っている」についても、児童の肯定的回答は７６．８％と比較的高い結果であった。「学び合う活動」と「学びを振り返る活動」の充実に取り組んできた成果と考える。
- ・「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。」項目について、保護者は７６．１％、地域は８０．７％が肯定的な回答であり、共に昨年度より増加した。コロナ禍で停滞していた地域と連携

した教育活動を再開し、各学年で近隣の商店街や施設の見学、地域人材を活用した授業や活動などを多く実施することができた。

- ・「家庭で宿題やeラーニングでの学習をしている。」ことについての児童の肯定的回答は、71.9%と昨年度に比べて、5.0%の上昇が見られた。また、全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査において、「ICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と肯定的回答をした児童は94.3%いた。本校で積極的に取り組んでいるドリルアプリでの家庭学習や、タブレットを活用した問題解決学習を行うことで、一人一人の習熟度や課題に合わせた個別最適な学びの実現につながると考える。

(3) 改善案

- ①東京都では、6月と11月をふれあい月間に設定し、いじめ防止やいじめの実態把握を行っている。また、世田谷区では学期ごとに「学校生活についてのアンケート」を全学年児童対象に実施し、そのアンケートを基に児童への個別の聞き取りを行っている。本校では、1回目と2回目のアンケートの間に「振り返り期間」を設け、1学期に聞いた悩みが解消されたのかどうかを確認している。個別に話を聞く機会を設けることで、児童が安心して悩みを打ち明けることができたり、いつでも先生に相談してもよいという気持ちになったりと、様々な面でプラスに作用している。今後も一人一人の児童に寄り添った指導の充実を図ることができるよう、児童との対話を大切にしていきたい。
- ②今後も引き続き、全教育活動で「学び合う活動」と「学びを振り返る活動」を充実させ、自分や友達のよさを見付け、協働しながら児童が成長できるよう努める。児童の成長の過程を学校だよりや学校ホームページなどで保護者や地域に積極的に発信して共有する。
- ③2つの大きな商店街に隣接し、農家や大学などが近い本校の恵まれた立地を生かし、生活科や社会科、総合的な学習などで、地域の施設や人材を活用している。また、学校支援コーディネーターの方々の多大なご協力により、様々な職業の方によるキャリア教育の講師や、小1サポーター、放課後算数教室の丸付けボランティアとして紹介していただき、充実した教育活動を実施することができ、大変ありがたい。今後とも地域や保護者とのつながりを大切にしながら、協働して児童の成長を促していく。

3 創造する力の育成

非認知能力に注目し、子どもが自己の目標（ゴールイメージ）に向けて、諦めずに粘り強く取り組み、新しい価値を創り出せる力を育てる。

(1) 評価結果

【全国学力調査の児童質問紙調査の結果から】
○あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。（89.2%（全国84.2%））
○学級活動における学級の話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。（84.5%（全国82.5%））
【保護者アンケート調査から】
○学校行事は、子どもにとって楽しい。（88.9%）
○学校行事は、子どもにとって達成感がある。（84.3%）
○本校は、子どもの意欲を大切にしている。（77.4%）
●本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。（61.7%）
●自分の子どもは、「自分で自分を育てる」ために、自分の目標に向かって、諦めずに取り組んでいる。（65.6%）
●本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。（47.0%）
●本校は、近隣の幼・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活

<p>動が行われている。（３４．８％）</p> <p>○子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。（６９．２％）</p> <p>○本校は、遊びや体育の授業などを通して、運動する習慣を身に付けるようにしている。（６８．１％）</p>
<p>【児童アンケート調査から】</p> <p>○学校行事は楽しい。（８４．８％）</p> <p>○学校行事は達成感がある。（８２．５％）</p> <p>○先生は、児童の意欲を大切にしている。（７９．１％）</p> <p>○目標をもち、その実現に向けて努力している。（７６．４％）</p> <p>○私は、「自分で自分を育てる」ために、自分の目標に向かって、諦めずに取り組んでいる。（７６．０％）</p> <p>○私は、学習や行事の振り返りをして、次に生かそうとしている。（７６．８％）</p> <p>○自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。（７４．５％）</p> <p>○「学び舎」の中学校に行ったり中学生が来たりする機会がある。（４８．３％ 昨年度３０％）</p> <p>●私は、体育の授業や休み時間に、積極的に運動している。（６０．０％）</p>
<p>【学校の自己評価から】</p> <p>○キャリア教育について、低学年では自分の好きなこと、得意なことをできるだけ増やし、様々な活動に意欲と自信をもつような取り組み（学級での係活動、１・２年生での生活科学校探検など）、中学年では友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割が自覚できるような取り組み（運動会でのダンスリーダー、遠足でのグループ活動など）、高学年では苦手なことや初めて挑戦することに、失敗を恐れずに取り組み、そのことが集団の中での自己有用感や自尊感情につながるような取り組み（宿泊行事での役割、経堂小パレードなど）を実施している。</p> <p>○児童の非認知能力を伸ばすために、学習、学校行事の振り返りを習慣化している。また、学年ごとに系統的に指導できるよう、校内で振り返りの視点を明確に統一している。</p> <p>○各学期のめあてカードの形式を校内で統一し、視点を明確にしている。また、年間を通して１枚に記入できるようにまとめて、キャリアパスポートファイルに保存し見返せるようにしている。</p> <p>○毎月の体育朝会の積み重ねによって、児童の運動への興味関心が高まった。体育朝会で取り組んだ動きを、体育学習の一部に取り入れ習慣化を図ったことで、休み時間など日常的に様々な運動に親しむ姿が見られた。</p> <p>○東京都統一体力テストにおいて、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、５０ｍ走、立ち幅跳びの５種目においては、Ｔスコアは学校全体で見ると、上回っているか同等の値である学年が多いが、合計得点においては、一部を除き、ほとんどの学年が男女共に、全国・東京都の平均値より下回っている。</p>

（２）考察

- ・「学校行事は達成感がある」項目についての肯定的回答は、保護者は８４．３％、児童８２．５％であった。また、「児童の意欲を大切にしている」項目についても、保護者は７７．４％、児童７９．１％であり、学校行事や授業における児童の意欲を大切にしたい指導に対して肯定的であると考えられる。
- ・「目標をもち、その実現に向けて努力している」についての児童の肯定的回答は７６．４％であった。また、「『自分で自分を育てる』ために、自分の目標に向かって、あきらめずに取り組んでいる」について、児童の肯定的回答は７６．０％であった。保護者が６５．６％と１０ポイント以上の乖離が見られるが、児童自身は、自己の目標に向かって取り組む意識を高くもっていることが分かる。
- ・６年生を対象とした全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果より、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」に対して肯定的回答が８９．４％、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」は８４．５％といずれも高く、全国平均よりも上回る結果であった。各学級での学級会を中心とした学級活動で育まれた児童の自治的能力が、学校行事や授

業での主体的な態度につながっていると考えられる。

- ・「私は、学習や行事の振り返りをして、次に生かそうとしている。」の児童の肯定的回答は76.8%であった。学校行事や授業で系統的に行っている振り返りの活動は、児童の非認知能力の育成に生きていると考えられる。振り返りについても保護者の回答とは10ポイントの開きがあり、いずれも児童と保護者の実感に差が見られる。
- ・「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」の児童の肯定的回答は、昨年度の69.3%から今年度は74.5%と増加しており、一昨年度と比較すると14.4ポイント増加した。各学年、各教科での学びが自己の将来につながっていると実感する児童が年々増加していると考えられる。保護者の肯定的回答は47%と低く、「分からない」の回答が30%と昨年度同様高く、保護者のキャリア教育に対する実感には引き続き課題が残る。
- ・「学び舎」の情報提供に関する回答は保護者、児童共に低かった。しかし「学び舎の中学校に行ったり中学生が来たりする機会がある」に対する児童の肯定的回答は48.3%と、昨年度の30.0%から18ポイント以上増加している。本校の卒業生である中学生が職場体験で小学校に通うことで交流ができたことや、生徒会、代表委員がオンラインで対話できたことで少しずつ児童の実感につながったと考えられる。
- ・学校の自己評価では、「体育朝会によって児童の運動への興味関心が高まった。」「休み時間など日常的に様々な運動に親しむ姿が見られた。」など、児童の運動に向き合う姿勢について、肯定的評価が多かった。しかし、児童アンケート調査では、「私は、体育の授業や休み時間に、積極的に運動している。」についての肯定的評価が60.0%と7割を下回る結果となり、教職員と児童の意識に乖離が見られるが、東京都統一体力テストの児童意識調査では、「体育の授業は楽しいと思いますか。」についての肯定的評価は93.2%、「体育の授業で、上手に体を動かして運動ができるようになっていてを実感することがありますか。」についての肯定的評価は85.3%と、どちらも高い値となっている。また、「体育の授業以外で、平均して1日にどのくらいの時間、運動やスポーツをしていますか。」については、中休みや昼休みに運動している時間を10分未満の数値で回答している児童が多い。これらのことから、体育の授業ではなく、休み時間は積極的に運動をしていないと感じている児童が多いと考える。
- ・東京都統一体力テストでは、昨年度同様の20mシャトルラン、ソフトボール投げに加え、握力の種目のTスコアが全国や東京都に比べて平均値が低い結果となった。このことから、20mシャトルランの全身持久力、ソフトボール投げの投力・瞬発力・巧緻性、握力の肘から手首にかけての筋力の低下が本校の課題と判明した。本校は全校児童数が800名を超えるため、休み時間に体を動かすには校庭の広さが十分でないことや、3つの種目につながる動きの経験の少なさが要因として考えられる。

(3) 改善策

- ①学校行事、学級活動では引き続き児童の実態に合わせた指導の充実を図っていく。特に学級会では児童が行事や学級の諸問題に対して自分たちで考え、話し合い、決まったことを実践していく難しさ、楽しさを味わわせたい。学級活動で育まれた自治的能力は、よりよい人間関係を築こうとする態度だけでなく、学校生活全般に対する意欲につながると考える。
- ②めあて、振り返りの視点を明確にした指導は今後も継続していく。校内研究と連携し、各教科・領域で系統立てて指導できるようにする。めあてカードや各教科、行事での振り返りシートの活動のねらいについて児童だけでなく保護者にも明確に提示する。
- ③全教科・領域・学校行事・特別活動において、学年の発達段階に応じたキャリア教育に結び付けた指導を引き続き行っていく。児童へ具体的な意識付けを行いながら、地域・保護者には公開するだけでなく活動内容によっては協力を仰ぎ、協働していくことでより一層の理解が進むと考える。
- ④学び舎の交流について、今後も各学校と調整しながら充実していけるように進める。中学校生徒会の活動指針に沿って対応できるよう、教員同士の情報共有をしていく。

⑤外遊びの習慣化を図るために、体育の授業で取り組んだ運動を、児童自らが課題を設定できる環境を整え、休み時間にも取り組めるよう、体育朝会の内容の工夫や休み時間の運動イベントの実施、使用できる用具を充実させ、多様な運動に親しむ機会を意図的かつ計画的に設定する。また、20mシャトルランに必要な全身持久力を高めるために、日常的な外遊びや縄跳びをする機会を増やしていく。ソフトボール投げに必要な投力・瞬発力・巧緻性を高めるためには、体育の授業の中で正しい投げ方やフォームを身に付けさせる。様々なタイプのボールやボール投げ補助具などの用具を充実させることで、休み時間も含めて投げる経験の場を設定する。握力に必要な肘から手首にかけての筋力を高めるためには、日常的に鉄棒に触れる機会を増やしていく。全校統一の縄跳びカードや鉄棒カードを作成することで、児童一人一人が明確なめあてをもって取り組むことができるようにする。